マニュアル様式第２号

政務活動費領収書等貼付用紙

整理番号	5
支出年月日	令和 4 年 7 月 9 日
項　目 (該当項目に○をつけてください)	調査研究費　(研修費)　広報費　広聴費　要請・陳情活動費 会議費　資料作成費　資料購入費　人件費　事務所費

領収書等貼付欄（支出年月日と支出項目が同一の領収書等は、まとめて貼付けできます。）

領　収　証　No[redacted]

寺前 英文 様　2022年 7 月 9 日

★ ¥500.-

但 資料代 (30)

上記正に領収いたしました

内訳	
税率	金額(税抜・税込)
%	消費税額等
税率	金額(税抜・税込)
%	消費税額等

芦屋シニアライフ・トータルサポート・グループ
〒659-0014 兵庫県芦屋市翠ヶ丘町18−24

コクヨ　ウケ-1048

充当内容 (按分の計算方法)	
その他	

＊ まとめて貼付けする場合、領収書等が重ならないようにしてください。
＊ 用紙裏面には何も貼付けないでください。
＊ 領収書等が枠内に納まらない場合は、２枚目以降用に貼付けしてください。ただし、Ａ４サイズのものや、広報紙などは糊付けせずにクリップで留めて提出してください。

シニアライフ・トータルサポート講座

今のうちに伝えたい　あの日のこと　あの出来事

私の戦争体験

芦屋と神戸の空襲体験

- 戦時中の小学校生活
- 終戦後の小学校生活
- 神戸大空襲
- 勤労学徒の経験

日　時　7月9日（土）10時～11時30分

場　所　(公社)芦屋市シルバー人材センター はつらつ館

話し手　宮本 さん、美野 さん

参加費　500円（資料代ほか）

申　込　32－1414　（公社）芦屋市シルバー人材センター

先着 25 名様とさせて頂きます

主催 芦屋シニアライフ・トータルサポート グループ

5-2

ＳＬＳセミナー プログラム　　2022.07.09（土）

10：00～11：45

司会　斉藤雅子

私の戦争体験

1. ご挨拶　10：00～10：03

2. 戦争時の情報提供　10：03～10：10

3. 芦屋での戦争体験　宮本さん　10：10～10：45

小学校、空襲、進駐軍の弁当、復員、大正橋、駅の子、・・・

4. 休憩　10：45～10：55

5. 神戸大空襲　美野さん　10：55～11：30

勤労学徒、教師の分厚い胸、神戸大空襲、つながる命、生死を分けた日、・・・

6. 懇談、感想など　11：30～11：45

ＳＬＳセミナー1　　2021.03.13（土）

大東亜戦争の体験を語る　～満州国の建設

1.1930（Ｓ5）海軍軍縮会議　統帥権干犯問題　5：5：3
2.1928（Ｓ3）満州事変（爆殺）　張作彬りん→張学良
3.1927（Ｓ2）南京事件　蒋介石　日、英、米、伊、デ、仏　テロ相次ぐ幣原不干渉
4.1931（Ｓ6）柳条湖で鉄道爆破　リットン調査団　満州国認めず
5.1932（Ｓ7）関東軍満州制圧　満州国建設　張学良追放　溥儀が国家元首に
6.1932（Ｓ7）5.15 事件海軍将校　クーデター　犬養首相暗殺、日銀、警視庁
7.1933（Ｓ8）国際連盟　脱退
8.1936（Ｓ11）2・26 事件　陸軍将校　高橋是清　反乱軍に
9.1937（Ｓ12）盧溝橋事件　日本人を標的に居留地の襲撃が相次ぐ
10.1937（Ｓ12）12 月南京占領　南京事件 30 万人、南京人口 20 万、1 年後 25 万
Ｓ46 朝日　本田勝一記者がキャンペーンで
11.1941（Ｓ16）11/27 ハルノート　日本のインドシナから全面撤退、中国放棄
＊　12/08 真珠湾攻撃
マレー半島進駐（英）蘭の石油
12/12　大東亜戦争と決定、
シンガポール英要塞攻略
12.1942（Ｓ17）6 月ミッドウエー海戦　空母 4 隻失う
8 月ガダルカナル島攻防戦　完敗
13.1944（Ｓ19）6 月マリアナ沖海戦　日本空母 1：米空母 32
14.1944（Ｓ19）10 月フイリッピン攻防　レイテ沖海戦　神風特攻隊
資源地帯の輸送路を失う
15.1945（Ｓ20）3/10 東京大空襲　10 万人　全国都市に焼夷弾
4/1　沖縄上陸　4/6 戦艦大和出撃　4/7 坊ノ岬で撃沈
沖縄戦の死者　18.8 万人（うち県民１２万人）
8/6 広島
8/9 長崎
16.1945（Ｓ20）8/9 ポツダム宣言受諾

大東亜戦争の失敗

1. 石油を求めて、蘭のインドネシアは治めたが、輸送船がやられた、護衛する気は海軍になかった。
2. 兵隊の死亡率 20%に対し、商船の乗組員の死亡率は 43%
3. ゼロ戦の運搬、名古屋から各務原（40 キロ）牛車でゆっくり運んだ
4. 戦前の石油輸入は 500 万 L、終戦近くは、79 万 L しかなかった
5. 陸軍は、石油が余り、海軍は不足していた。
6. 工場の熟練工を前線に送り出し、学徒動員でしのいだ。独は、工場に残した
7. 日本の兵隊の一日当たりの摂取カロリーは、独の兵隊の 1/3 強であった。
8. 最悪の事態は議論しない事なかれ主義の思考。
9. 緊急事態の条項が憲法にない珍しい先進国である。
10. 能天気な、思考停止の平和国家？

5－4

ＳＬＳセミナー2　　2022.07.09（土）

時代背景を理解するために

1. 満州事変の時代に

　１９２９年世界大恐慌　　下村千秋　中央公論「飢餓地帯を行く」１９３２．３月号

　農村の娘の身売り（冷害,飢饉による）　　100 円～300 円/1 人

　　M 銀行大卒給与 75 円

　　電気製品冷蔵庫 600～800 円

2. 主要物資生産力比較（日米）日本の何倍

	1938 年	1941 年	1944 年
石炭	7.2	9.3	13.8
石油	485.9	527.9	956.3
鉄鉱石	37.5	74.6	26.5
銑鉄	7.3	11.9	15.5
ｱﾙﾐﾆｳﾑ	8.7	5.6	1.3

3. 航空機の生産

	日本	米国
1939 年	4,476	5,856
1940 年	4,768	12,804
1941 年	5,088	26,277
1942 年	8,861	47,836
1943 年	16,693	85,898
1944 年	28,180	96,318
1945 年	11,060	49,761
合計	79,132	324,750

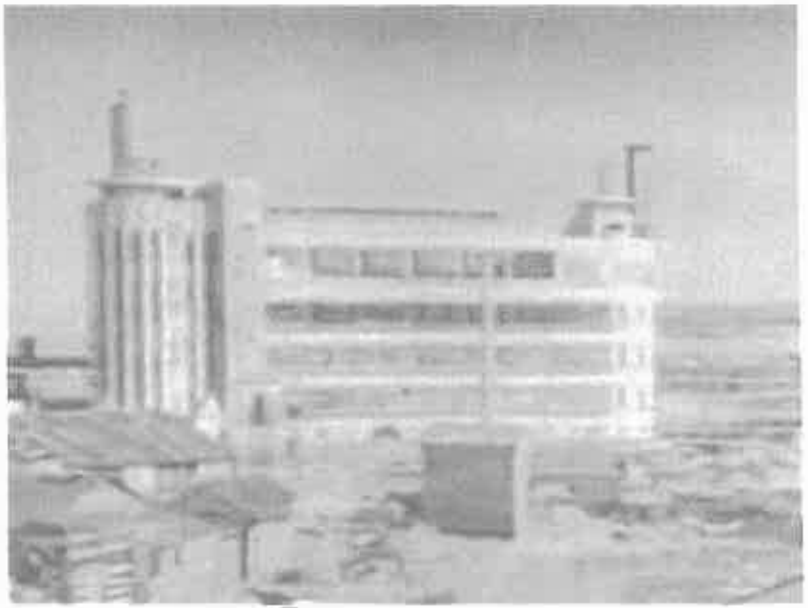
4. ご参考（2017 年の軍事費）億ドル

1. 米國	6, 100	2021 年は、8000 億ドル（88～90 兆円）
2. 中國	2, 300	2021 年は、3000 億ドル(35 兆円*)
3. サウジアラビア	700	
4. ロシア	663	
5. インド	640	
6. フランス	578	
7. 英國	472	
8. 日本	454（５兆円）	
9. ドイツ	443	
10. 韓國	392	

5-5

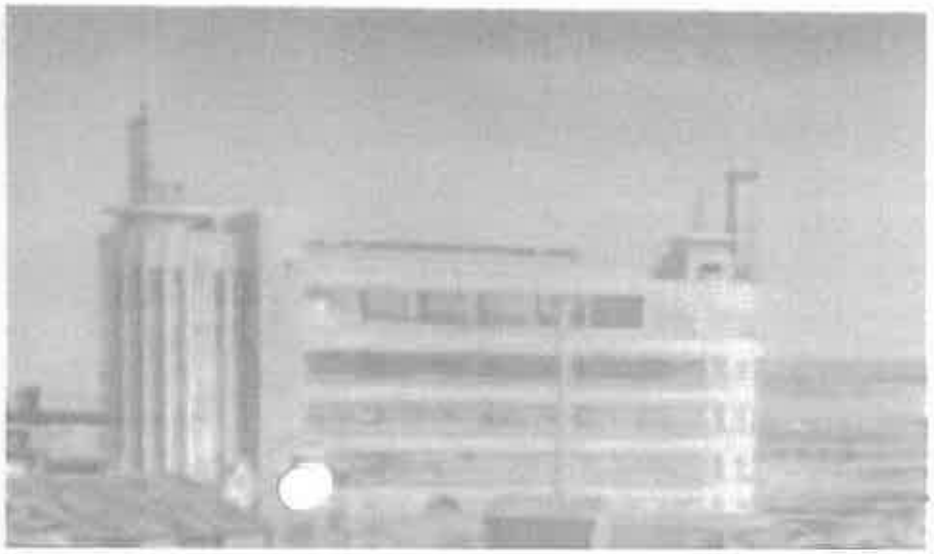
神戸大空襲

中山手 モス[illegible]教会



[illegible]阪急三宮

戸大空襲（昭和20年）



空襲の記憶

宮本　まさこ
　　允子

昨年の夏は戦後七十年の節目と言うことで、テレビはもとより新聞にもその関連記事が満載であった。

あの夏、芦屋市立山手国民学校に通っていた私の同級生たちは九歳か十歳だった。

疎開していた子、家を焼かれた子、父親が戦死した子、空襲で親兄弟を亡くした子、戦後は外地から引き揚げてきた子ともども、昭和二十三年三月に小学校を卒業した。

あれから七十年、皆は平成二十七年度中に揃って八十歳を迎える。

現在、地元に暮らしている者で「何とか元気」と言う者数名が集まって「傘寿祝賀同窓会」を開こうと企画した。開催日を十一月半ばと決めて、還暦同窓会の時に作成した名簿を頼りに、案内状の発送準備にかかった。

卒業生二百二十名中、物故者が約四分の一、住所不明が約三分の一。後、全国に散らばっている残りの九十名に案内状を送付することにした。それも、どの程度、無事届くか分からない。例え手元に届いたとしても、皆八十歳だから、どれくらい出席の返事が返ってくるかもわからない。

しかし、数名の世話役たちは十一月の目標が出来て、何となく活力が湧いてきたようだった。

誰かがもたらす情報に「えっ！　あの子も死んだの？」などと喋るうち、戦争中の思い出話になる。

互いに、自分が八十歳まで生きてきたなんて信じられないと言いながら…。

「大場君って覚えてる？」私の質問に

「ああ、居ったなあ。色白の優しい顔した子」と一人が答えた。

「でも、卒業名簿には大場君の名は載っていなかったよね」と誰かが言った。

その真相を私は知っている。

あの年は三月一〇日の東京大空襲をかわきりに、大都会に、いや大都会だけではない至る所で本土大空襲が繰り返された。

先日発行された「広報あしや」八月一日号の「タイムトラベル」の記事の中には、芦屋市が受けた空襲の記録があった。

昭和二〇年（一九四五年）五月十一日、六月五日、六月十五日、そしてもっとも被害が大きかったのは八月五日から六日未明にかけてとある。

その年の春ごろには、友達の多くは縁故疎開し、組の人数も少なくなっていた。

子供たちは粘土質の急坂を上って登校しても、勉強どころではなく、上級生は先生たちと固い運動場を掘り返して畑にし、私たちは山へ堆肥を取りに行く日々だった。校舎全体に、敵機の攻撃目標にならないよう、迷彩色のペンキが塗られていた。

「東部軍管区情報。敵戦闘機、〇〇機、現在紀伊水道を京阪神方面に向かって…」

敵機来襲のラジオ放送と同時に警戒警報のサイレンが鳴り響く。

警戒警報が発令されると、家が近所の生徒同士何名かが班になって校庭に整列し、坂道を駆け下りて家に帰る、ということを繰り返していた。

いつも、西芦屋町にある我が家の路地まで来ると、三条南町の朝鮮部落の子、ゴン・トウスン（漢字は覚えていない）君と、清水町の大場君の三人になった。

その日（六月十五日）は何故か大場君と私の二人だけだった。

サイレンが何度もせわしなくうなりをあげ、空襲警報に変わる。間もなく、B29編隊の地鳴りのような音が聞こえてくるはずだった。生徒たちは「空襲になれば、どこの家の防空壕でもよいから入れてもらうように」と先生から言われていた。

我が家に着くと、外に出ていたもんぺ姿の祖母が「よう、帰ってきた！　早う、早う。

防空壕ぐー」と叫んだ。

「ボク　帰る！」大場君は息を荒げてそう言った。

無理もない。彼は一刻も早く「おかあちゃん」の顔を見たかったのだ。

大場君は、子供の足で十分ほどかかる家へ向かって走って行った。彼が、家の門が見えるところまで来たとき焼夷弾と爆弾が投下され、彼は右足に大怪我を負ったらしい。

大阪や尼崎市街地を目標とした約四五〇機のB29が投下した一部が芦屋市街地にも落とされたそうである。

それから数日ほどが経って「大場君大怪我」の噂を聞き、何処からか卵を二個ばかり手に入れた祖母は私を連れ、県立西宮病院まで国道を歩いて見舞いに行った。

病院は多くの入院患者と付添人、外来には順番を待つ患者でごった返していた。消毒液の臭いが充満する大部屋の前で、祖母は大場君の名を探し当てた。病室から、うす汚れた割烹着のお母さんが出てきて、祖母の顔を見るなり語気荒く言った。

「どうしてうちの子をお宅の防空壕へ入れてくれなかったんですか！　ひどい怪我で、あの子は片方の足を切断したんです！」

私は爪先立って部屋を覗こうとしたが、大場君の様子は見えなかった。

帰り道、私の手を引いていた祖母は独り言のように呟いた。

「私はもう二度とあの子の見舞いには行きとうない」と。

五月十一日、五〇〇ポンド（二五〇キロ）の大型爆弾一発が、阪急芦屋川駅近くに落とされた。深江の川西航空機工場を攻撃した隊の残りの弾を芦屋に落としていったということであった。

大勢の死傷者が出た。

投下地点近くに家があった仲良しのきくちゃんは、二人の妹を亡くした。

血と泥で汚れた多くの怪我人を、戸板に乗せて近所の外科医院まで運ぶ光景が目に浮かぶ。阪急芦屋川駅の傍には直径何メートルもある大きくて深い穴が開いていた。

低空飛行する小型機から放たれる機銃掃射に追いかけられた恐怖の記憶。飛行機の音と「ピュッ、ピュッ！」と耳を掠めるような弾の音。

機銃掃射の不発弾を渦いた溝の中に見つけた父が「交番に行って知らせてきなさい」と私に言った。

「不発のバクダンが近所に落ちています」と言った私を先頭に隊列を組んで十名あまりの警察官が現場にやってきた。

「何だ、機銃掃射の弾じゃないか！。子供に爆弾だなどと言わせて！」と、警官の一人が銀色に赤や青の線と横文字が入った弾を拾い上げた。一五センチほどの弾はとてもきれいだった。父が警官にひどく叱られたのを覚えている。

八月六日未明、隣町の月若町は、焼夷弾により多くの家が焼けた。

空を覆うB29の編隊からヒュー、シュルシュルと降ってくる焼夷弾の音。

我が家に落ちてきたのは、物に触れた瞬間、炸裂し破片が水平に飛び散って、多くのものを破壊する小型爆弾だった。破片による怪我人がたくさん出た。

屋根や樹木など、何の障害物にも触れず地上にとどいた小型爆弾が炸裂し、その破片が、ちょうど防空壕から顔を出した隣家の小母さんの首につきささった。女学生だった隣のお姉さんの助けを呼ぶ声に、父は駆けつけた。そして、お姉さんと二人で小母さんを戸板に乗せ、外科医院に運び込んだ。

すぐに切開して、鉛の破片を取り出してもらい、小母さんは一命をとりとめた。

祈るようにして付き添っていたお姉さんは、とりあえず助かった母親を見てどんなに安堵しただろう。その途端、自分のあくらは

ぎに強烈な熱さと痛みを感じたという。
先生に「あんたも足の治療を…」と言われて見た自分の足は血だらけで、同じ小型爆弾の破片が貫通していたそうだ。
ただ、母親が助かることを祈り、戸板を持って医院まで走ったときには、何の痛みも感じなかったらしい。
我が家の庭を耕した畑に、ちょうど収穫寸前のナスやキュウリがなっていたが、それらはすべて根元から飛び散った。食糧難をやりくりしていた女たちは、傷ついた家よりも食べることが出来なくなったナスやキュウリを惜しがり悔しがった。
翌朝、近所の四つ角で見た自分と同い年くらいの少女を私は忘れることが出来ない。
多分、家を焼け出されたのだろう。親たちはどうしたのだろう。もんぺ姿の少女は、背中に赤ん坊を括り付けたまましょんぼりと立っていた。顔は煤で薄汚れ髪の毛は砂ぼこりでかたまり、涙と汗の頬に張り付いていた。

町を右往左往する大人たちも、自分の家の被害と家族のことで手一杯だったのかも知れない。焼煙の町角で暑い日差しの中、立ち尽くしていたあの子の姿を今も思い出す。
芦屋が大きな被害を受けた同じ日、広島に原子爆弾が投下された。
父が「広島に新型爆弾が落とされて、広島は全滅らしい」との噂を聞いてきた。
灯火管制のため灯が漏れないよう真黒な布地のカーテンをしていたが「白いカーテンに変えんといかん。凄い熱線を黒は吸収して、黒い色を身に着けていた人はひどい火傷で皆死んだということや」と、興奮気味に話していたのを覚えている。
小型爆弾により全てのガラスが吹き飛んだ我が家の二階に土足のまま上がり、真っ赤に燃え上がる東の空を父と見ていた。
夜空を焦がす炎の記憶と重なって、あの病院の帰りに、うつむきながら祖母がもらした言葉が、私の脳裏によみがえる。

大場君は、二度と学校に来ることはなかった。

勤労学徒

美野　欣三郎

太平洋戦争が終わりを告げた、昭和二十年八月十五日。

その半年前に、私は、兵庫県西明石にある川崎航空機製作所で、戦闘機「イ一〇三号」の製作に、学徒動員として従事していた。

私たちK中学校の二年生生徒百名は、学業を中断し、勤労奉仕に就いた。

通勤は、国鉄（今のJR）によったが、当時、省線電車は明石までしか運行しておらず、神戸ー西明石間は汽車に乗る毎日であった。

鋸刃の形をしたスレートの屋根が、幾層も続く製造工場の中で、製作所から支給されたグレー色の作業服を着て、戦闘機の主翼の桁（リブと呼んでいた）の鋲打ち作業に励んでいた。

リブは、翼の強度を高めるための骨組み支柱で、スポーツ用品のシンボルマーク「ナイキ」を裏返しにした形をしている。

この桁に、電気ドリルで孔をあけ、そこにアルミニュームの鋲を差し込み、エヤーハンマーをもちいて打ち固める作業である。

仕上げると、工場の熟練検査員のところへ持っていき、検査を受ける。

検査員にマジックでX（バツ）印を無数に入れられ、持ち帰る。不良個所をドリルで孔を明け直し、再度鋲を打ち直す作業を繰り返すのであった。

シロウトの急造工員である私たちにとっては、熟練工のようにはいかず、不良品続出、やり直しの連続であった。

はたして、失敗続きのリブでこの飛行機が無事飛ぶことができるのかと、不安を抱きながらの勤労奉仕であった。

にわか仕立ての中学生工員は、生真面目に作業のみに精励していたわけではなかった。

昼休みがくると、工場常駐の監督官の目を盗んでは、非国民と呼ばれることをしていた。

工場内で、ステンレス金属片を探してきて、めいめいの自分の氏名のイニシアル（私のはK・M）のバックルを作り、秘密のいたずらを楽しんでいた。

外形をヤスリで削り、形が仕上がると、表面を紙ペーパーとぼろ布でピカピカに磨き上げる。出来上がると宝物のように財布に仕舞い込んでいた。

就労してから二カ月が経ち、六月の第二日曜日、大変なことが起こった。

私たち二年生は、就労学徒の中では最低学年であり、日曜日は休日であった。

だが、兵庫県立商業の学徒たちは、一年上であったため、休日返上で、同じ工場で飛行機の胴体の一部の製造に従事していた。

この日の午後、空襲があり、退避命令がでて、彼等は西明石の工場から退出し、明石公園に避難した。

この公園に、敵機グラマン戦闘機三機が飛んできて、彼等めがけて機銃掃射をあびせかけた。逃げまどう彼等に繰り返し低空飛行でねらい打ちした。

十名が死亡し、三、四十名が負傷し、公園は悲惨な修羅の場と化した。

翌月曜日、彼等の姿は工場で見ることなく、工場の庶務員から、この情報を聞き、私たちはふるえあがり、声も出なかった。

さらに三カ月後、工場内のサイレンが鳴り渡り、警戒警報が発令された。

私たち百名は、早期工場外退避となり、引率教師の先導により、駆け足で約一キロ先の山中の防空壕に避難した。

行き着いた防空壕は、丘の中腹に掘られており、奥行き六メートル、縦横各一・五メートルの横穴で五カ所並んでいた。

前に平地が広がり、その先に大きな池があった。

防空壕の中に、二、三十人ずつが、我先に

となだれ込んだ。
「お前ら、外から無暗に押し込むな！　生き埋めになったら、死ぬのは奥の俺たちや」
「じゃかましいやい。弾片が飛んできたら、真っ先に当って死ぬのは、外側の俺たちや」
エゴまるだしで壕内の皆がいがみ合った。
まもなく、敵機が近ずき爆弾の投下が始まった。
空中から落ちてくる爆弾の音は、遠くでは「ザーッ」と聞こえ、至近弾は「ヒューン」と唸り、空気をつんざいた。
次の瞬間、全く音が聞こえず直撃弾が、前の池に落ちた。大きな水柱か立ったようであった。
瞬時に、壕は上下左右に大きく揺れ、壕内の天井から激しく土砂が降りかかった。
私は、左端から二ばんめの壕に入り、一番外側にいたから、まともに爆風を背中に受け飛んできた小石が腰に当り痛んだ。
どれくらい時が経ったのか、私は薄目をあけて周りを見た。
防空壕の支柱は二十度ほど傾き、近くの者は頭から肩にかけて土砂をかぶり、頭と背中を一層こごめて震えていた。
しばらくして、五つの壕の中から、百名の仲間たちは、まるで孵化した子亀が産卵穴からぞろぞろ出てくるように、壕外に這い出してきた。
見ると、前の平地いっぱいに、俎から拳大の紫色のささくれだった断片が、ところ狭しと散らばっている。
それぞれの断片から、気味悪く青白い薄煙りが揺ぎ上っている。
一同は、あらためて爆弾の怖さを実感していた。
すぐさま、教師の号令で皆は整列し、点呼が行われた。
結果は、全員揃って無事で、一人のケガ人も出ていなかった。奇跡的といってよいぐらいの幸運だった。

しばらく時を待って、工場内に帰ることとなった。工場退出から五時間が経っていた。
時限爆弾が残っていないかと心配しながら帰り着くと、工場内に天変地異が起こっていた。
投下爆弾により、会社の指令部のあった四階建鉄筋ビルは、屋上から地階に至るまで、直径十メートルの大穴が突き抜け、各階の内部はふっ飛んで、がらんどうになっていた。
また、林立していた工場は、跡形もなく薙ぎ倒され、燃えくすぶっていた。
南方をみて、愕然とした。
工場敷地内からこれまで、まったく見ることのできなかった淡路島が手に取るように見えたのである。
（もうこれで、戦闘機も作れず、リブの鋲打ち作業も終わったんだ！）と思った。
直後、勤労学徒は、自宅待機せよとの命令が出た。
再度、工場に出向き就労せよとの報がないまま、やがて一カ月が過ぎ、そのまま玉音放送を聞く敗戦となったのであった。
しばらくして、学校がはじまり、授業が再開された。
しかし、私たちには、（いまさら勉強などして一体何になるんだ）と、心の底には大きな傷と、虚脱感だけが残っていた。

マニュアル様式第２号

政務活動費領収書等貼付用紙

整理番号	6
支出年月日	令和４年 ７月 20日
項　　目 (該当項目に○をつけてください)	調査研究費　研修費　広報費　広聴費　要請・陳情活動費 会議費　資料作成費　資料購入費　人件費　(事務所費)

領収書等貼付欄（支出年月日と支出項目が同一の領収書等は、まとめて貼付けできます。）

ご利用明細
本日はご来店いただきありがとうございます。
ご利用明細をご確認のうえ、お持ち帰りください。
裏面のご案内もあわせてごらんください。
SMBC

☆☆お振込☆☆

お振込金額	¥52,900
振込手数料	¥110

お受取人は
[redacted]銀行
[redacted]支店
普通 [redacted]
[redacted]様

お振込人は
テラマエ　タカフミ　様

お取扱日　4.　7.20　電信振込

取扱店	機番	年　月　日	時刻
767	35	4.　7.20	15:24

銀行番号	店番号	口座番号
[redacted]		

税務署承認済　印紙税申告納付につき題町

三井住友銀行

充当内容 (按分の計算方法)	(賃料52,900円＋振込料110円)×按分率1/4 ≒13,252円
その他	

＊ まとめて貼付けする場合、領収書等が重ならないようにしてください。
＊ 用紙裏面には何も貼付けないでください。
＊ 領収書等が枠内に納まらない場合は、２枚目以降用に貼付けしてください。ただし、Ａ４サイズのものや、広報紙などは糊付けせずにクリップで留めて提出してください。